

第3回横浜市新たな劇場整備検討委員会基本計画検討部会	
日時	令和2年8月25日(火)14:00～16:00
開催場所	横浜みなとみらいホール レセプションルーム
出席者 (敬称略) (5名)	本杉 省三 委員(劇場計画研究者(日本大学名誉教授)) 明石 達生 委員(東京都市大学都市生活学部教授) 倉田 直道 委員(工学院大学名誉教授) 立川 好治 委員(有限会社ニケステージワークス 代表取締役) 水野谷 良子 委員(株式会社ヴォートル 代表取締役)
欠席者 (敬称略) (0名)	なし
開催形態	公開(傍聴人5名/報道5社)
議事	(1)新たな劇場の施設概要の検討 (2)その他
資料	議事次第 資料1:委員名簿 資料2:席次表 資料3:令和2年度第3回横浜市新たな劇場整備検討委員会 基本計画検討部会資料

議事内容

- 1 新たな劇場の施設概要の検討
- 2 その他

【本杉部会長】

- ・ まず、議題に入ります前に、第2回横浜市新たな劇場整備検討委員会基本計画部会の議事録について、皆様に配付してございます。これについて承認いただきたいと思いますが、ご意見ありますでしょうか。

【委員】

(異議なし)

【本杉部会長】

- ・ ありがとうございます。異議がないようですので、第2回基本計画検討部会の議事録に関しましては、これで確定したいと思います。承認いただいた議事録は、今後、委員会のホームページで公開させていただきます。
- ・ それでは、第3回基本計画検討部会の議案に沿って進めてまいりたいと思います。なお、ご質問、ご意見については、後ほどまとめて時間をいただきますので、そのときをお願いいたします。各委員からご発言いただく場合には、挙手していただき、お近くにあるマイクをオンにして発言していただき、終わりましたら、必ず電源をオフにさせていただきますようお願いいたします。
- ・ それでは、資料に沿って事務局からの説明をお願いいたします。

【事務局】

(資料3の説明)

・

【本杉部会長】

- ・ ありがとうございます。今説明していただきましたように、今回の資料は7章立てになっております。1、2章は、前回の部会でも議論しました。それを踏まえての質問、そして、3章、4章のところのご意見、ご質問等があればお願いしたいと思います。あまり何章から何章と区切る必要もないかもしれませんが、一応そのようにします。他の章について先に発言したいという方がいれば、それも結構だと思います。いかがでしょうか。
- ・ では、明石委員お願いします。

【明石委員】

- ・ それでは、5章から話していいでしょうか。今、部会の流れとして、早く概算の事業費を算出してほしいということがあり、その大事なところ、予見になるところを埋めていくという作業をしています。今回は、前回より一段落進んだ形で出していただいたの

ですけれど、それを踏まえて、いくつか意見を申し上げます。

- 一つは17、18ページ辺り地下工事についてです。掘り返す工事をどのぐらい行うかというところにすごく関係すると思います。地下を工事するというのが、一番お金もかかり、時間もかかります、地下を掘り返している間は上物は全然建たないので、それが長引くと、工期はとても長引きますし、掘った土を持っていくにはそれだけのトラックが行き来しなければいけません。とにかく、地上に建てるより地下を使うというのは何倍か金にかかることなので、ここをどう考えるかが1つのポイントだと思います。
- そう思って見ていくと、18ページについて、前の部会のとときに議論がありましたけれども、なるべく荷物の搬出入のところと舞台とは平面のレベルでバリアフリーのように通じていた方が使いやすいということでしたので、それを地下に埋めると結構お金がかかると思います。そのため、私の意見としては、地上階という案の方がいいのかと思います。ほかの先生方で違う意見もあるかもしれませんが、この方がいいのかと思います。
- そして、その1つ前のページ、17ページに戻ってもらうと、言わば舞台が上下するところの下のピットをどこまで大きくつくるかということですが、16ページにあるような絵というのは、案1の方の絵もそうですけれど、前に見た新国立劇場はこのスタイルです。しかし、これだけ大がかりなことをする必要があるかどうかというところを精査した方がよいと思います。そう思うと、案2の方とは、工事費という面で見れば大きく違うだろうと思います。
- それに加え、少し余分なことかもしれませんが、メンテナンスの費用というのが、結構無視できないことだと思います。以前、筑波の研究所にいたことがあり、そこは、大がかりな特殊な実験装置が結構ありました。つくるときのお金もそうですが、それを維持していく、点検などにすごく無視できないお金がかかり、部品交換などでは、特注で作っているためそう簡単にいかなかったりするので、なるべくそういう大がかりな部分をシンプルにしていくことも、後に出てくるお金を削ったりリーズナブルにして、余分な出費をあまりかけないようにするために、大事な視点だと思います。そういう意味で、大がかりになる部分やいろいろと動く機材が必要な部分は、できるだけシンプルにして、汎用機材が使えて最小限というのを目指した方がよいのかと思います。違う意見もあるかもしれません。
- それから、そう思うと、15ページのところで4面舞台なのか6面舞台なのかということ

の話がありました。舞台が全部稼働する必要はないのではないかと思います。むしろ広く取っておくことによって、舞台の上に載せるものをうまく動かしていくなどの説明があり、それはなるほどそうかと、広い敷地を取れそうなので、そうすると、そういう考え方があるのかと思いました。

- それから、20ページですが、エントランスのレベルをどこにするかというところがあり、これはすごく大事なことだと思っています。私自身はまちづくりや都市計画の方が専門なので、舞台とかはあまり詳しくないところですが、2階レベルからのエントランスを基本にして、そして、1階部分には車寄せをつけ、自動車で来る人は1階のどちのき通りから来るといいますし、バスも着くかもしれません。それに、キング軸のデッキがあり、そのデッキレベルから、横浜駅方面、YCAT方面からのデッキレベルから入っていくようにして、外から見たときのグランドレベルは、デッキレベルにした方がいいと思います。
- ただ、そのときにスケールをよく考えておく必要があるのですけれど、どちのき通りはちゃんとした道なので、クリアランスが概ね5メートル、道路構造令だと4.5メートルとか4.8メートルだと思うのですけれども、概ね5メートルぐらいのクリアランスが必要です。しかし、そんなにひどく高いクリアランスではなく、今新しく建っているみなとみらいの超高層も大体階高が5メートル近いと思うので、そのぐらいのクリアランスは取れていく必要があります。それで舞台ももしかすると少しかさ上げをするのかもしれませんが、そういう辺りはある程度しっかり押さえておいた方が予見としてよいかと思います。
- 少し先走った話になるかもしれませんが、後になって出すと困ることなので申し上げます。エントランス前の広場空間というのは、この中でもウィズコロナで屋外空間の活用というのもありましたが、広場といってもただ広ければいいというものではないです。それなりにうまく使える広場というのは工夫があって、私自身が思うところで申し上げますと、サンクンガーデンがいいと思います。
- サンクンガーデンというのは、シンク (s i n k) の過去形みたいなものですが、沈んだ庭という、少しへこんでいるところです。例えば今テーブルが囲んでいますが、このテーブルの面がデッキレベルで人がいるとすると、広場の面が床の面になるような形で、見下ろせます。周りにみんなが来て見下ろして、下で普段はカフェか何かがあり、お茶を飲んだりしているのですけれど、時々イベントがあつたりすると、そこに舞

台を設営して、スターか何かがいる、それを周りのみんなも見ることができたりします。

- これをしっかりとつくりたいと思うと、私なりにこのぐらいがいいと思うのは、大体40メートルです。この広場はいいと思うと、何か判で押したように40メートル角です。それは、例えば新宿三井ビルの下の55広場というのは、昭和55年ですから古いのですけれど、あれは私もいまだに名作だと思っています。うまくつくってあるのがやはり40メートルで、日比谷シティの下も40メートル、あるいは新宿にもアイランドタワーというのがあり、そこも大体40メートルぐらいです。うまくつくられていて、舞台との間のところ、例えばトップスターが来て、それで皆さんが集まってくると、警備とかそういうのも必要だと思いますが、舞台になるところとの間にクリークというか、ほんの1メートルぐらいのお堀をつくっていくと、分断がうまくできます。よく動物園で猛獣がいるようなところで同じレベルで見られるところにお堀があったりするのがありますけれども、そういうようにできたりすると思うのです。
- そうやって、広場について、この屋外空間の活用で、エンターテイメントゾーンで外に開かれたなどといったときに必要になるのだと思います。敷地の寸法が分かっているのですけれど、建物をどんと置いて、余ったところを広場にすると言われるとできないことがあるので、私のはアイデアで言っているのですが、何かその辺もにらんで考えていく必要があると思いました。1つ先のこともかもしれないですが、申し上げました。すみません、長くなりました。

【本杉部会長】

- どうもありがとうございました。舞台の床機構の話やエントランスの部分、そして、それに関連した広場についての話でした。これに関連してでもいいですし、ほかのこともあれば。では水野谷委員、お願いします。

【水野谷委員】

- 今の明石委員のお話の続きですが、20、21ページのエントランスについて、案1、案2があつて、私は案2の方がいいと思っておりました。なぜそのように思ったかというところ、こちらの記載にもメリットをまとめて書いてあるのですけれど、やはりアクセスが非常に分かりやすいということが大事です。もちろん1階から2階に上がるアクセスが非常にシンプルであれば、今おっしゃったようなことが可能なかとも思うのですが、

まずフラットで行けるということが非常にお客様にとっては都合がいいと、これまで思っ見てきました。

- もう一つ、案1①と②のプランですが、②のプランは、完全に下は1階で賑わい空間をつくって、ここにテナントを入れるというような、そんな考えだろうと思います。こうやってつくられているところもありますが、上に屋根があるような状態になっていると、暗いというイメージがあります。1階に賑わいスペースとして考えていろいろ工夫はされているようですが、暗くて、期待したほど活用されていないという感じを受けるところが実際にはあります。なので、屋根がない方がいいということで私は案2と思っところですが、ただ、車寄せに使いましようというような活用の仕方が明確になっているのであれば、そういったプランもいいのかと思っました。

【本杉部会長】

- ありがとうございます。では、倉田委員。

【倉田委員】

- かなり具体的な、設計に近い話が出てきていますが、おそらくこの案1②というのも設計をイメージして出しているというよりは、あくまでもダイアグラムというか、床と、レベルの関係を表しているものだと思っしています。私もその辺について触れたいのですが、その前にまず、導入機能の検討のところについて、少しだけ話します。
- 特にこれが間違っているということではないのですが、ご説明の中にもありましたが、検討委員会でもそういったご指摘があっように思っますが、今回の劇場は、ホール自体が使われている時間は、おそらく日にちにしても最大でも半分ぐらいたという話ですので、それ以外のときは実際にホール自体が使われていない状態ということになるわけですが、これはいろいろな劇場、このクラスの劇場ではなく地方の劇場でもそうですが、単館の場合、中の催物がないときは、入り口も閉まっいて、ほとんどそこでは何の活動もない空間になってしまっているということがあると思っます。
- 今回この劇場を計画する上で、舞台、それから客席等については、新しい技術を導入したりして、特に実験的なこともできるようなものが舞台に求められるだろうと思っのですが、新しい今回の劇場の建物は、今の時代にしかできない劇場建築であっほしいと思っています。それが表現できるとすると、ほかでもご指摘があっようですが、

ホワイエやロビーのつくり方じゃないかと思っています。

- 14ページの「施設構成のイメージ」ですと、「ホールエリア」と「交流促進エリア」をきれいに分けているのですが、特にホワイエやエントランスロビーというのは、おそらく交流促進エリアと重なってくるように思います。これはあくまでもダイアグラム上の話ですけど、そんなイメージでつくるということがすごく大事です。そのことによって、この劇場自体が地域により開かれた劇場になってきますし、それから、創造支援エリアの一部も、場合によっては交流促進エリアと部分的には重なってくると思います。例えば練習室や創造スペースも、場合によっては地域に開放されるような使われ方もされることが考えられるのではないかと思うので、施設の構成イメージの中にも少しそういうイメージを表現しておいた方がいいと感じました。現実にはそのつくり方によって、この時代にしかできない新しい劇場建築というのが実現するのではないかと思っています。そこはすごく期待したいところでもあります。
- それから、先ほどから出ている話ですけども、今回の敷地をイメージしたとき、舞台のレベルと、搬入のレベルを同じにしておくというのが妥当じゃないかと思っています。18ページで言えば、案1の方です。そんなイメージかと思っています。
- 20ページについては、これも基本的に皆さんの意見とほぼ同じで、特に先ほどのように舞台レベルを18ページの案1のように設定したときは、歩行者のレベルやエントランスのレベルというのは、案1のような形になってくるのではないかと思っています。そのときに、今回の立地である60・61街区は、敷地の前面にとちのき通りがあり、車の通る通りがあるわけです。そうすると、それが不幸なことに高島中央公園と完全に分断しているような形になっています、本来であれば、これだけの規模の大きい施設があれば、そこに隣接する形でまとまったオープンスペースがあるというのは、特に公園のようなスペースがあるというのは、将来いろいろなイベントを企画する上でも非常に大事だと思いますし、劇場の環境としても非常に好ましいと思います。けれども、それが分断されているので、どのぐらいの量でつなぐかにもよりますが、例えば2階のエントランスロビーレベルをできるだけ公園の方まで張り出して、公園と歩行者レベルでつながるような、さらにそれがキング軸にまでうまくつながっていくと良いと思います。歩行者レベルが連続的に、公園というようなものがあれば、単に急な階段でそこをつながなくても、いろいろ工夫でエントランスロビーのレベルに上がる方法があると思います。エントランスロビーの側からすると、前面に公園があるというのは非常に

恵まれた環境にもなりますので、アクセスの問題や、先ほど申し上げた機能の配置で、交流空間などを非常に魅力のあるものにしていくためには、そういったつくり方が考えられると思います。そういう意味で、この案1というのが期待できるかと思います。

- それから、先ほど明石委員が言われたサンクン広場の取り方ですが、案1②の場合に、2階のエントランスロビーレベルのデッキが歩行者レベルで、その下のエントランスロビーと言われているレベルが、サンクン広場のレベルになるというやり方はあると思います。サンクン広場のようなつくり方の有効性はいろいろなところで証明されているので、私自身設計者でもあるので、そういうやり方は手法としてあるのではないかと思います。いずれにしても、そのつくり方は、今回の新しい劇場を市民にとって身近なものにする、あるいは観光資源といった意味でこの劇場を活用していくということでも、非常に大事だと思っています。
- もう一つ、土地の使い方として、基本的にはこの土地の整備については、単館で、それも横浜市の単独でというような形で事業としてもやっていこうということですが、例えば38ページを拝見すると、④というところが今想定される劇場敷地ですが、できればその敷地の一部、特に少し飛び出たようなスペースがあるので、そういったところも利用して、一部でいいと思いますので、将来的に劇場を補完するような、例えば劇場に関連するような機能かもしれないですし、それを補完するような民間の参入余地というものも一部確保しておいた方が将来的にはいいのではないかと思います。周辺が結構建て詰まってきたので、そんなことを感じます。
- 同時に、敷地周辺に進出するプロジェクトがいろいろ決まってきたので、それらとの関係も意識した、特にアリーナや水族館、ホテルというようなものが予定されているようですので、それを意識した建物配置や、公共空間の取り方、例えば敷地内の公共空間も隣接する施設と共用し、双方から利用できるようにしておくなど、そういった工夫も必要だと思います。それぞれ独立して完結した敷地のつくり方というよりは、そういうことも必要かと思っています。以上です。

【本杉部会長】

- ありがとうございます。水野谷委員からは、お客さんが近づいてきて分かりやすい、そういう入り口のあり方がいいという話でした。
- 倉田委員からは、劇場ホールは公演がないときにはどうしても外から見ると閉ざされ

がちなので、そうならないようにするためにも、もう少し機能が絡み合うような工夫が必要だということ、機能的にはこういう分けだとしても、もう少しそれらがお互いに絡み合うような関係で施設の構成イメージも描けないかという話でした。それから、高島中央公園とのつながりが、もう少し取れるような工夫というのも今後必要ではないかということと、もう一つ、単館ではあるけれど、民間の参入をある程度確保することで、賑わいや文化的な活動の補完をした方がいいのではないか、という話でした。

- ・ そのほかいかがでしょうか。立川委員、お願いします。

【立川委員】

- ・ 今3人の委員の方からそれぞれ劇場の顔となるエントランスの部分と、その付随機能のようなものがかなり提言されたところで、私もそれについてはほぼ全面的に賛成です。
- ・ 劇場で仕事をしている者にとって、劇場というものは、公演がない時間帯はもちろん中で様々な作業が行われているのですが、そのときに劇場のロビーなどが完全に閉鎖されていて分断されているというのは少し違和感があり、その辺ももう少しオープンにさせていただくと、中でしている作業、要するに、公演だけではなく、それに付帯する作業のようなものが、ある程度どこかで交流できることが行われるといいと思いました。以前の部会でも話しましたが、劇場の中のバックステージツアー、劇場の中の施設とその機能が、どのように稼働しているかといったことを実際に一般の希望者に見せていくようなことは、劇場の施設というものがなぜこのように大きな施設が必要なのかということの理解にもつながり、非常に大事なことだと思います。
- ・ 少しコアなことになりますが、舞台の面数、要するに、15ページの多面舞台のケース1とケース2というのがあり、ケース1は、新国立劇場の、いわゆる主劇場の舞台の面数が4面あると書いてあります。これは、付帯する搬入口や荷捌き場が中ホールと共用の部分があり、そういうことでいえば、4面+ α の面積があるといいです。加えて新国立劇場の場合は、舞台全面が奈落に下りる機構があるので、その分もプラスアルファになると思います。そういうことを考えると、その隣の舞台6面というのは、一見過剰に見えるかもしれませんが、実際の運営面からいうと、それほど大き過ぎるということはないと思います。
- ・ さらに言えば、リハーサルの機構や研修施設的な使い方を想定し、このような舞台の上

のメイン舞台でない部分で、例えば研修のようなプログラムを考える、そのことで劇場と市民の方との交流のようなものを有機的につくっていく努力というようなことができれば、さらにいいと思います。ただし、これは劇場の運用としては、かなり手間がかかり、管理が結構難しく大変な部分があるかと思います。しかし、そういうことをすることが、つくった施設を有効に使い、そして、その施設が様々な育成のためにも非常に重要なものになっているというのが、一般の市民の方、普段あまり劇場を訪れないような方にとっても、理解の一助になればいいと思っています。

- ・ 明石委員から、建築費の費用の問題やメンテナンスの問題から、あまり地下を掘らない構造を目指すべきではないかという話がありましたが、私もそれについては、埋立地であるという特殊性も含めて、そういう方向を考えていくのがいいのではないかと思います。
- ・ 新国立劇場のような形の、舞台全面が奈落まで沈むという構造が必要かどうかということでは、あまり必要性は高くはないと思います。むしろそれほど深く掘らないけれど、演出的なある程度の高低差は使用でき、下の部分を資材の置場とかに使えるというような、案2のようなプラン17ページの右側にありますが、そのようなプランを考えていく方がいいのではないかと思います。
- ・ 舞台面を地上階にするか、地下にするかという話については、実際に舞台を使う方からいうと、それほど大きな問題はないですが、例えば舞台階を地下にするということは、地下を掘る工事が全体に増えるということになります。そういうことを考えると、舞台が地上階にあり、エントランスは複数の動線から、地上階と2階から複数の動線からお客様が劇場に来られるというような構造がいいのかと、まちの特性も考えてその方がいいかと思っています。
- ・ 倉田委員から、公園とのつながりという話がありました。確かに、お客様の来る動線からいうと、公園の反対側にロビーを設けるのが、一番移動距離が短くなるとは思いますが、ロビーの開放感や休憩時間、開場前にロビーにいる心理的な開放感のようなものは、やはりロビーからどういう景色が見えるかということがすごく大きいと思います。そのようなことを考えると、エントランスとロビーとその配置を、いろいろ知恵を出し合って考えていくのがいいかと思っています。

【本杉部会長】

- ありがとうございます。立川委員からは、多面舞台としての広さはある程度必要だという話や、床機構もある程度必要になってくるけれど、それほど深くはなくてもいいのではないかという話、それから、舞台面は地上階・地下階レベルどちらでもいいけれど、搬入と全体のコストを考えながら検討した方がいいという話でした。
- 私からも少し意見をとします。それぞれの想定に対して、今回の部会での方向性案というのが書かれており、最初の舞台の広さに関して言うと、案2の方は、それぞれの後ろの舞台のところがリハーサル室対応あるいは組立場というように、兼用使いになっています。1つの大きな空間を単に舞台として使うだけではなく、ほかの用途にも使えるようにしようということで、せっかくの広い空間ですので、それぞれ単独の利用ではないことも考えているというのは良いと思います。
- 前も少し話しましたが、1団体が複数の作品を公演する場合、当日公演しない作品の保管場所をある程度確保しておかなければなりません。1団体が1つの公演を行う、あるいは複数団体が一緒になって1つの公演を行うという場合は、これほどの舞台は必要ないかもしれませんが、複数の団体が複数の公演をする、あるいは1つの団体が複数の公演をする、1日の中でという意味ではなく、連続的にという意味ですが、その場合には当日公演する作品に必要な広さとは別の広がりがあることが大事です。リハーサル室にも使える、あるいは組立場としても使っているのだけれども、必要なときは舞台としても積極的に使いましょうという、そういう複合的に広さを利用するという考え方はあるのではないかと思います。
- それから、16ページの「イ 地下構造」というのは、17ページの「ウ 吊り機構」という言葉に対して言えば、「床機構」と言った方が適正かと思います。その内容は立川委員が専門的な立場からお話しになったとおりにかと思います。
- 舞台レベルに関しては、18ページのところで、部会の案として、同一レベルとすると断定的に書いていますが、今の段階では断定しないで、それを基本とするとか、原則であるとかということぐらいがいいのではないかと思います。実際の設計になったときに、建築家の人たちは、それぞれの敷地に合わせて、あるいは自分の考え方に合わせて構想してくるものです。搬入口が例えば案2のように地下のレベルである場合でも、あるいは2階レベルまで行っても、搬入そのものをスムーズに行うことは可能です。
- ただし、そのときにはメインホワイエ、エントランスとの関係というものがそれぞれの

場合で変わってきます。そのため、1階の利用をどう考えるか、グランドレベルの利用をどう考えるかということによって、この考え方は少し変わってくるものです。ですので、あまりここでは断定的に考えないで、基本的にはそう考えているという程度の表現がこの段階ではふさわしいと思います。

- 19ページに「イ エントランスのレベル」というのがあり、その後24ページの想定5でまた「エントランスロビー・ホワイエ」について書かれているので、これはどちらかにまとめて書かれた方がいいと思います。
- 部位部位でいうと、例えば搬入口や入口ということだけで見ると、それぞれ書かれているとおりで。21ページについては先ほど水野谷委員がおっしゃったように、案2はグランドレベルから来て分かりやすい、東京文化会館のような入口、ホワイエの関係というのはいいというのはそのとおりでと思います。しかし、敷地が傾斜しているとうまい具合にレベル差が取れ、搬入口もうまくいくし、お客さんの入り方もうまくいくということがあるのですが、敷地が今回のように比較的平らだと、どちらかが必ず1層分、数メートルずれてしまうわけなので、部位部位でいうとこのとおりでと思いますが、全体として考えると、やはりそれは考え方によって変わってきます。

グランドレベルは、パブリックな人たちにできるだけ近づいてもらいたい、そういう開放的な空間にしようというように、そこを大きく取った方がまちのため、あるいは市民のために良いという考え方で、その構想の下に良い設計ができれば、舞台を上を上げる、あるいは下に下げても、そういう空間を設けることになるかもしれません。それは、もう少し先の設計の段階で考えていくことになると思います。ですからこの場合、もぎりの位置をどこにするのか、メインホワイエともぎりをどの辺にするのか、それが分かりやすいようにというような表現の方がいい気がします。

- それから、22ページの想定3のバックヤードについて、これは創造支援エリアのことだと思いますが、スタジオがいろいろ使えるようにというように書いてあって、それはそれで大変いいことだと思うのですが、それにより装備が過剰になってくるとまた逆な意味になってきます。
- 今ここでは、組立式の観客席床、どの程度の組立式かにもよりますが、ここでもお客さんが入った使い方もできるようにしようという考えは、これはとてもいいことだと思います。また、固定のキャットウォークをつくらうということもそれほどお金に大きく関係しないことですし、スタジオとしては大変有効です。お客さんが入った小さ

な公演をしたいという時でも有効になると思います。けれども、照明やスピーカー、吊物バトンの設置が可能になるようにするということでは、可能になるような程度だといいいのですけれども、設備するというように断定的になってしまうと、そこまでしなくてもいいのかなということになってきます。しかも、それが複数あります。複数あることはいいことだと思うのですが、あまり装備が過剰にならないようにすることは基本的に大事なことだと思います。

- また、倉庫についても、簡単な修理、手直しというのは必ず必要になってくることなので、そういうものを設けるということはいいいことですし、それらが舞台の延長空間のようなどころでもできるとなっていれば、非常に効果的だと思います。
- 23ページの観客席については、主舞台を全員から見渡せるような配置を目指すと書かれています。これはこれでもいいのではないかと思います。「目指す」というのが「にする」となり、断定になってしまうと、設計者には非常に苦しい重荷になってしまいます。なるべく良いサイトラインを確保してくださいということはいいいと思います。しかし、どこも同じように良くという訳にはいきません。
- 結局、客席の数が多くなるということは、舞台から遠い席が増えていくわけであり、近い席が増えるわけではありません。舞台から遠い席、分かりやすい言い方をすると、安い席が増えていくことになるので、お客さんが比較的安価に優れた上演を見られる席を設けるという点で、こういう公共劇場にとって1つ大事なことだと思います。しかし、上質の公演を提供するということが最初の目標にも書かれているとおりにありますので、それを保障しながら、そこは遵守してやっていければいいと思います。
- 一通り見ましたが、そのほか言葉が統一されていないところもありますので、それは後で少し話したいと思います。
- 第3、4章が今日の核心的な部分ではありますけれども、それ以外の章のところでも含めて、5、6、7章のところに関してもさらにご意見があれば、発言していただければと思います。よろしくお願いします。
- 特に7章の検討候補地については、前回のときに明石委員からも発言があった通りです。この街区を候補地とするということは、もうここしかないだろうという話でした。今回も、昨年度の委員会の時にきちんと記載されていなかったということでもう一度載っておりますけれど、その点いかがでしょうか。
- 明石委員、お願いします。

【明石委員】

- 建築面積が書いてあるところ、40ページになります。敷地面積、建築面積。既存のホールが大きいですけれども、確かに新国立劇場は別格に大きいですが、ほかのところを大体見ていっても、1万㎡くらいの建築面積としていくわけです。それで、敷地って形が四角いわけでもないんで、少し余裕がないと入らないということにもなりますが、2,500席というのを観客席としては考えながらつくっていくことを考えていくと、1万㎡ぐらひは素直に必要なだろうと思います。それが入る場所という、みなとみらいで探す限りはここしかないんで、検討委員会としてはここの敷地を前提に検討しないと話が進まないと思いますので、ここだろうということによろしいのではないかと思います。

【倉田委員】

- あと1つ、これはメインの話ではないかもしれないですけども、あまり駐車場の話が出ていなかったです。今回この施設をつくるときに、どのぐらいの車による来場者を想定しているのかということと、どのぐらいの駐車場を考えているのかということが少し気になっています。特に駐車場を設けるとすると、立体的に地下に持ってくる可能性も高いのではないかと思います。そうすると、これもコストにも影響するということになります。個人的には、この立地であれば、駐車場というのは必要最小限でもいいと、これからの時代を考えるとそんな気もしています。公共交通も、結構近くに駅がありますので。
- それから、ここにいろいろ集客施設がかなり集まるので、駐車場もそれぞれの施設が独立して持つというよりは、駐車場の運営、マネジメントというような形で、シェアするというような形で駐車場の数を少し減らすというのも、全体の事業費に影響するのではないかと思います。

【本杉部会長】

- ありがとうございます。床面積に対して、法的附置義務台数は必要になります。どこかにほかに受けてくれるところがあればということもありますが。
- これまでの中で、事務局の方から何か追加的な説明をしたいことや補足があればお願いいたします。

【事務局】

- ・ 貴重なご意見をいただき、ありがとうございます。まず、最後に出た駐車場のところでございますが、本杉部会長がおっしゃったとおり附置義務がございます。現在では延床面積に基づいて何台は確保しなければいけないというのが出てまいります。しかしながら、将来的にこれから計画をしていく中では、倉田委員がご発言いただいたように、いろいろな形で少しでも地区で効率的に運用ができるように調整をしていく、あるいは考えていくということが大切なことだと思っておりますので、そのような努力はいたしますが、現時点では附置義務の駐車場をこの敷地の中に確保するというのが基本的な考え方としてスタートになると考えております。
- ・ それから、いわゆるレベルの課題といえますか、どういう形でこの劇場を配置していくかというところで、1つはやはり地下をなるべく掘らないで、浅くしていくというのがベースであるというご意見をいただき、そう思っているところでございます。一方でエントランス等の問題につきましては、委員の皆様方からご指摘をいただいたとおりでございますけれども、お客さんの動線、あるいは高島中央公園との接続の関係、それから、賑わい、集客、1階での広場の使い方、様々な要素を鑑みながら、今後設計の段階でいろいろと配置をしながら詰めていくものだと思います。
- ・ 現時点では、そのような考え方が非常に重要であり、それがまた、ここで言うこの地区の賑わいや発展にもつながってまいりますので、周辺の施設等の連携やつながりなども含めながら、引き続き設計をしていくものではないかと思っております。考え方として、そういうベースは非常に大切にしなければいけないということで理解をいたしました。
- ・ 以上でございます。

【本杉部会長】

- ・ ありがとうございます。引き続きご意見、ご質問等があればお願いいたします。
- ・ 私の方から少し。先ほど倉田委員から話があった、各機能の構成のイメージについてです。こういうそれぞれの機能が必要だろうということは承知しておりますけれども、もう少し絡み合うようなことがあってもいいという話でした。例えば創造支援エリアのリハーサル室や練習室などを様々な催しにも使えるようにする、特に横浜市の中で各地域にあるコミュニティのためのホール施設とかありますが、そういうところで指導

に当たっている人たちを集めて、指導者のスキルアップにつなげていくような、そういう研修というのは東京文化会館などでも積極的にやっていますし、市全体の文化活動によって地域にいらっしゃる活動の指導者、リーダーたちの場としてもとても重要だと思います。そういう活動場所にするのにも、とてもいい場所になると思います。

- また、創造スペースというのは、衣裳や道具の製作ができるような、大がかりなという意味ではないのしょうけれども、以前話題になっていた美術館と連携しながらの創造的な行為や、学校とも連携した活動の場所になります。そういった意味で、舞台裏機能ではありますが、オープンスペースあるいは賑わい施設、交流促進エリアとのつながりというのも重要だと思います。
- また、ホワイエやエントランスロビーというものも、劇場が公演しているときだけ使われるのではなくて、それだけ独立して使うことができるというようなつくり方も考えられます。常にホールと観客席とホワイエが隣り合っていますけれども、中でリハーサルや仕込みをしているときに、ホワイエが使えないという状況ではなく、両方で使えるような使い方ができるということが、これからは求められると思います。貸館を積極的にするという事ではないとは承知していますが、施設を使って、ほかではできないことができる、異なるイベントが各所で同時にできる、あるいは魅力的な貸す場所としても使えるかもしれません。
- また、飲食のスペースなどがここにありますが、海外の有名なオペラ劇場などでは、カンティーネと呼ばれるいわゆる楽屋食堂が、部分的にお客さんも入れるようになっていたりします。完全な壁で仕切っているのではなく、フレキシブルな、一緒の空間の中で使い分けているという事例もあります。ですから、必ずしも外から来たお客さんだけ、あるいは中で働いている人たち、アーティストが食べる場所としてだけではなく、両方から使い込めるようなつくり方もできると思います。これは今までにしたことがない使い方ですので大変かもしれませんが、事例はありますので、そういうことも積極的に考えていけると良いと思います。また、劇場の舞台は全体として表と裏が完全に分断される危険性があります。分断して安全性を確保するという事は大事ですが、あるときには明確な壁を取り払って融通性のある使い方ができるというようなことも大事な事かと思えます。そういうフレキシブルな使い方ができることが、新しい劇場としてふさわしいのではないかということ、どこかでうたえると思っています。

- ・ 水野谷委員、お願いします。

【水野谷委員】

- ・ 第2章はほぼ固まっているということだろうと思うのですが、あえて一言話したいと思います。今も本杉部会長から話がありましたけれど、育成の部分について、ここに書かれているように、アーティストにどうしても目が行きがちなのですが、支える側、劇場運営をするスタッフの育成もとても重要と考えます。このような準備段階で集中して議論を重ねていくうちに、その思いはおのずと共有されていくわけですが、その人たちがいずれ入れ替わってくるタイミングがあり、そのときに、この大事にしていた精神が受け継がれるような、そういう教育、育成の期間を計画的に設ける必要があるのではないかと感じます。
- ・ 長年この仕事をしていますと、どうしても人事異動などというのはあり、ホールのスタッフが替わると、全く違う方向に向いていくというのは現実としてあります。そうではなかったはずなのに、結果このようになってしまったというようなことがどうしてもあるので、何かそういったものが少しでも触れられるといいという感じを受けました。

【本杉部会長】

- ・ ありがとうございます。明石委員、お願いします。

【明石委員】

- ・ 26ページ、第4章に「概算整備費算出の考え方」とありますが、次回や次々回のところを想像しながら、今発言するのが適切かどうか分からないのですが、ここに書いてあるいろいろな機能について、今後、面積を入れ、その面積に建設単価を掛けていくというような予定でしょうか。要するに、概算事業費を算出するに当たってそれがベースにはなると思うのですが、何かやり方について見通しがあれば教えてください。我々の方がサジェスチョンしていかなければいけないのかもしれないですが、もしあれば少しお聞かせいただいてもいいですか。

【本杉部会長】

- ・ 事務局、お願いします。

【事務局】

- 今の明石委員のご質問でございますが、かなり専門的な要素も加わり、私どもとしては、今こういうやり方でお出ししますというようなことをご説明するレベルにまでまだ詰め切れていないというのが正直なところでございます。できればいろいろと我々なりに試行錯誤しながら、部会長あるいはほかの委員の方とも相談を事前にしながら、限られた時間の中と、あと、今回は設計・積算をするというよりは、全体の事業費が概括でどのくらいかということですので、事業費、施設規模、施設内容と、一方でソフトがやっていることがつながって市民の皆さんにお示しをして、妥当だと言えるような、また、その部分のみを取り出すのではなく、全体として見てどうなのかといったところをご説明することが目的でございますので、専門的な要素と全体を見なければいけないというところもでございます。
- そういう意味では、私どもはこういうやり方をまだ持ち合わせておりませんので、場合によって、部会長等と事前にご相談しながら、次回、次々回になるかは分かりませんが、お示しできるときにしっかりとご説明したいと思っています。

【明石委員】

- ありがとうございます。私の方も考えがあって言えればいいのですけれども、その辺がしっかりまとまっておりません。

【本杉部会長】

- 26ページの図を見ますと、各エリアあるいはエリアを超えて、構造がどういう構造であるかという、例えば鉄骨鉄筋コンクリート造、鉄筋コンクリート造、鉄骨造と書かれています。一般的に今の段階でここまで分けることはないのですが、比較的簡単で大スパンのところは鉄骨で、低いところでスパンが短く遮音性など重視するところはRC造というような捉え方、積算を今後していくときに、厳密にやっているということをおそらく表現しているのかと見ていました。
- そのほかございますか。倉田委員、お願いします。

【倉田委員】

- 先ほど話しておいた方が良かったかと思ったのですが、機能の中のさらに細か

い話になるかもしれないのですが、今回たまたまこういう形でこのプロジェクトに関わらせていただいて、周辺の人達とバレエ・オペラの話をする機会が出てきているのですけれども、まだ一般的にはバレエやオペラというのはかなり敷居が高い舞台芸術だという感じはしています。規模は別にしても、新しい劇場の中に、もう少しそういうレベルの人たちが少しでもバレエやオペラに対して興味を持ったり親しめるような、そういうきっかけになる何かがあってもいいかと思いました。

- ・ 具体的にイメージがあるわけではないですが、例えばそういった舞台芸術のちょっとしたライブラリーや、ミュージアムまで大げさなことは言えないまでも、舞台芸術を理解できるもの、それから、ライブラリーには、映像なども含めたアーカイブ的なものがあり、それが視聴できるなど、そのようなものがあることで少しずつハードルが低くなっていくのではないかという気がします。エントランスロビーなどの一角に、先ほどでいえば交流促進エリアのところでも構わないですけれど、そういった機能があることで、いきなりホールに観客として行くということでもなく、舞台芸術に親しむことができると思ったところです。規模は別にして、少しでも市民の人たちがバレエやオペラに親しみを感じることができるきっかけになるようなものがあるといいと思いました。

【本杉部会長】

- ・ ありがとうございます。それは多分25ページの「舞台芸術紹介コーナー」や「情報センター」ということにつながってくるだろうと思います。エントランスロビーがいいのかどうかは分かりませんが、そういう機能というのは必要なことかと思います。
- ・ 明石委員、どうぞ。

【明石委員】

- ・ 今、倉田先生がおっしゃったことは本当にそうだと思います。前にバレエが中心なのかという議論があったときに、検討委員会では建物のことだけ言いましたが、女性は今でもそうなのかもしれませんがピアノかバレエかどっちか習っている方がすごく多いのではないのでしょうか。私の子も低学年のときはピアノをやっていて、少し大きくなってからバレエをやっていました。そうすると、少し大きくなってからバレエをやっている子たちが憧れを持って見ていくような、そして、そういう形での市民に対しての提供というところがあると、大分親しみが出てきて、しかもバレエを中心にしているというこ

との、一つの説明になるような気もしています。

【本杉部会長】

- ・ 立川委員、お願いします。

【立川委員】

- ・ 実際にオペラやバレエの現場で仕事をしている者としては、お二人の委員のご意見を聞いて、やはりまだなかなかそういう受け取られ方が多いのかなという気は少しします。我々も、例えばリハーサルを公開することや、舞台稽古を一般の方に公開し、積極的にバレエを、本番どおりではない形ですが、こういう場所でこのようなことが行われているといったことを積極的に知っていただく機会をなるべく持てる努力はしているつもりです。
- ・ しかし、劇場を訪れるのが大変ということはもちろんあるかもしれませんが、どういう演目をどのような密度で公演していくか、それを実際にどのように皆さんに周知し、現場を訪れていただけるかという努力は、ある意味で営業的な努力になるのだと思います。要は、施設としてもそういうことができるものがあり、もう少し広く公開できたりオープンにできるという可能性が今の時点で考えられるのであれば、なるべくオープンな形の構造にしておくというのがいいのではないかと思います。

【本杉部会長】

- ・ 東京文化会館や目黒のパーシモンホールなどでバレエホリデーや祭りがあると、たくさんの方がいらしています。1日だけではなく連続的にやっています。そういうところに来ている人たちは確かにいますが、一般的にはまだという話なので、引き続きそういうことは必要だろうとは思いますが。
- ・ 明石委員、お願いします。

【明石委員】

- ・ 創造性を高めていく、創造性を発揮するとおっしゃいましたが、何か決まったものを見せるというのではなく、どんどん創造性を高めていくような、そういう仕掛けをうまくつくってくださいと言われていて、これが実はこの中で解けていないと思うのです。

- ・ 今おっしゃったように、市民との関わりの中でいえば、市民の気持ちが上がっていくようなところでの創造性というのがあります。そうすると、市民レベルでこういう芸術に親しむ人や、あるいはそういう方面をやろうという人などが増えてくるというのがあってもいいし、舞台については、なるべくある意味でシンプルにしながら、この売りは何かと言われたら、ヨーロッパに本場のものはあるのだけれどとても古いものも多く、横浜では最新鋭のものがあり、バレエだったらここは素晴らしいというようなところをつくっていくことかと思います。
- ・ あるいは、これからは画像を使った、今だとプロジェクションマッピングがあり、そのうちホログラフィーが出てきて、そのようなものを使いながら、それを中継したり、本場で行われている、例えばウィーンで行われているものを、同じものをここで立体的に見られたりなどということになっていくように、舞台の装置をつくっていくなど、思いつくことがあまりないのですがもう少し具体的な内容があれば、少し話していただけたらと思います。

【本杉部会長】

- ・ 事務局から何かあればお願いします。

【事務局】

- ・ 2点お話しします。1点目に、倉田委員あるいは明石委員から、お客様をしっかりと定着させていくという話の中で、実を言うと、管理運営検討部会でも同じようなご議論がございました。今、横浜市では、管理運営検討部会の委員の方々からの、昨年度からの提案がございまして、ソフトファーストをやること、つまり、劇場が出来て劇場がいきなり人を呼ぶのではなく、劇場が出来るまでの間にいかにして市民や子供たちを盛り上げていくかが重要だということです。そこを怠ると、劇場が出来た後、どうしようかということになり、それはかなり厳しい状況です。
- ・ 横浜市では、昨年度から小学校4年生を対象に、教育委員会が「ドン・キホーテ」の上演を授業として見に行く形を取りました。生徒たちの感想は非常に高く、感動したといったことや家に帰ったら自分で1時間くらい思い出して踊ったなどがあり、何よりも驚いたのは、ダンサーたちが、通常、日本のお客様というのは拍手する場所が決まっているのですが、ここで拍手が出るかというような、子供たちの自由なアクションがあり

ました。そういった子供との接点というのは、双方にとってものすごい効果があるということが分かりました。

- 今年度も来年度も引き続きこういった取組をやっていくということで、自由に来てくださいということもあると思いますが、やはり学校教育の中でそういったことを取り入れ、横浜市の場合は劇団四季のミュージカルや神奈川フィルハーモニーのオーケストラ、それとバレエ、この3つを順繰りに、4年、5年、6年でやっています。こういった取組が、必ずしも全員がバレエということではなく、それぞれがご自身に合う、あるいはご自身が何に感動するかといったようなことを幅広くやっていくということがいいと思っています。こういった取組をしっかりと続けていくということが重要なことだと思っています。
- 諸外国へ行っても、そういったお客様を創客と彼らは呼んでいますけれど、やり続けることだというようなことを言われていて、やはり何かを見たら急に来るというものではないと言われており、そういう意味では、劇場行政だけではなく、幅広い行政の中でそういったことをやっていきたいというのが1点目でございます。
- 2点目は、明石委員から創造性を発揮するためにどうなのかということについてです。いろいろと議論する中で明確な答えが出てきたわけではないのですが、やはり全てがつながっているということかと思いました。スタジオや、あるいは本舞台、デジタル映像など、全てが創造性につながっています。ただ、ややもすると、それぞれが劇場の中でも縦割りになってしまうので、新作をつくるときにどういう場面でどのようにつくっていくことがいいのかということであり、単なるハードさえつくればいいというものでもないです。
- また、ある芸術監督の方からは、いつも市民に見られていることが一番重要だと言われており、それはまさに劇場が閉まっているときでも人がいっぱいになっているような、そういう環境で自分は創造性を発揮したいといったご意見や、それぞれの感性をどうやって引っ張り出せるかということが重要なので、何か作文をすれば出来上がるというものではなく、全てのものはつながるといふところをどのように最終的にレポートあるいはハードにつなげていくかということ、全てがつながっているということだと思っています。

【本杉部会長】

- ありがとうございます。ほかに意見ございますか。ないようでしたら、時間ですので、取りまとめたいと思います。
- 今日の部会では、主な施設の仕様の方向性や、概算整備費の算出の考え方を中心に議論いただきました。今後検討を進めていく上で大変大事な議論ができたと思っています。
- ここで、次回に向けて私から2点確認したいと思います。1つは、今日の主な議題でありました基本事項の方向性というところで、15ページから25ページにかけて、施設事項の基本的な方向性に書かれている想定1から5について、皆さんからご意見をいただきました。いただいた意見を基に、今後さらに海外事例なども参考にして整理していく必要がありますので、事務局の方でこれをさらに検討し、資料を整理していただきたいと思います。
- 2つ目は、検討候補地の話です。39ページ前後にありましたが、昨年度の議論では、土地費用の負担を踏まえた想定になっていませんでしたけれども、前回と今回の部会によって、こうした負担があっても60・61街区が適切だという意見を中心として、全体的な皆さんの異議もなかったもので、それが適切であるという取りまとめをしたいと思います。
- この内容については、両部会で共有するよう、事務局でよろしく願いいたします。以上2点が私からの今日の取りまとめです。委員の皆様、いかがでしょうか。
- その他、全体を通じてご意見、ご質問があればお願いいたします。よろしいでしょうか。
- 特にないようでしたら、最後にお願ひがあります。検討を進める上で議論の参考になるような資料等がありましたら、ぜひ事務局に提供頂きたいと思います。よろしく願ひします。
- 以上で、事務局に進行を返したいと思います。よろしく願ひします。

【事務局】

- 長時間のご審議、誠にありがとうございました。次回部会の日程につきましては、今後調整させていただき、あらためてご連絡させていただきますので、よろしく願ひいたします。
- 以上をもちまして、第3回横浜市新たな劇場整備検討委員会基本計画検討部会を終了いたします。本日はどうもありがとうございました。